

柴北川プロジェクト通信 16号

平成23年4月3日(日) & 4月9日(土)

1. 開花時調査決行

3月11日(金)に起こった「東日本大震災」のショックが大きく、開花時調査と言っても“お花見”の色も濃いためその実施にはためらいがありました。しかし賛同して頂ける方もおられましたので、開花時調査を4月3日(日)に実施することになりました。ご承知のように今年の寒さは異常で、草木の開花は例年より2週間以上も遅れたようです。この調査も元々、一週間前の3月27日(日)に予定していたものでした。

参加者は、波木事務局長、森協会員、武市会員、武市会員のお母上と木寺の5人で、現地合流を期待していました波多野会員は、ご都合で参加できなくなりました。

豊後大野市の道の駅みえで弁当等を調達した後、まずは黒松地区生活改善センターで地区会合中の渡邊さんへご挨拶致しました。その後、三ノ岳なかよしパーク中途の展望台～松巖寺裏～奥の院～成瀬谷～松巖寺裏林道～大塚会長宅～道の駅きよかわ、そして最後に沈墮の滝まで足を伸ばして帰途に付きました。

2. 松巖寺裏、奥の院、成瀬谷

1) 松巖寺裏

何と言っても松巖寺裏は、この冬に竹林伐採をしたところでもあり、大変気になっていた場所です。三ノ岳なかよしパーク中途の展望台から竹林伐採地点を撮った様子は以下のとおりです(波木事務局長撮影、以下の写真も同様)。赤丸箇所が山桜周辺として狭い範囲ながらも竹林伐採を実施した場所ですが、その山桜の開花が確認できます。しかし、全体的には、開花が遅れている状況が見て取れ、来るのが早過ぎたかと思われました。



写真-1 展望台より松巖寺裏全景を望む(赤丸地点が竹林伐採箇所)

2) 奥の院と成瀬谷

奥の院の素晴らしさは、開花時を一目見た人なら分かるはずですが、地元の森林組合が杉の苗木を植える際に地域の意向を反映して山桜だけは伐採せずに残しておられる場所です。少し早過ぎるかとの不安もありましたが、展望台を下りて奥の院を目指しました。その結果は、以下のとおりで、1～2分咲きというところでしょうか？残念でした。

次に訪れた成瀬谷は、渡邊さんらが松巖寺さくら公園に次ぐ第2の視点場も今年度整備された箇所、花見弁当をそこで食べようと勇んで行ったところ。その状況は写真に示すとおり、奥の院よりも開花にはほど遠い状況でした。またまた残念でした。



写真-2 1～2分咲きの奥の院



写真-3 つぼみのままの成瀬谷（手前が第2視点場）

3. 松巖寺裏林道での花見と弁当

“花を見ながらのお弁当”をイメージしていた我々全員は、成瀬谷を全員一致でパスし、渡邊さんより「松巖寺裏の林道に入ると結構咲いていますよ」とのアドバイスがありましたので、そこへと向かうこととしました。そして漸く、本格的に開花した山桜群を鑑賞できる場所を見つけました。この場所は、柴北川流域の外にはなりますが（葛川の右岸斜面か？）、写真でも分かるように、かなり見応えのある開花状況になっていました。しかし、車の外は寒く、結局は車の中でシートを倒して、一同、車座で弁当を食べました。震災で車の中で過ごされている方も多いと聞いていたので、どんなに大変だろうと誰からでもなく言葉が出てきて、今の自分たちの恵まれた状況に感謝しました。



写真-4 林道地点から見た対岸の山桜群



写真-5 弁当の席取り？

4. 大塚会長宅と道の駅きよかわ

大塚会長は、若干体調が良くないとのことで、地区の会合に出席されていませんでした。渡邊さんよりご挨拶だけでもお伺いしたい旨の連絡をして頂き、帰り際に立ち寄らせてもらいました。体調を心配していましたが、玄関先まで出てこられ皆で写真を撮らせて頂きました。喘息が出ているとのことでしたが、早く体調が戻ることを切に願っております。

会長宅を最後に、長谷（柴北川流域）を離れ、道の駅きよかわと沈墮の滝へと向かいました。沈墮の滝の素晴らしさは紙面の都合上省略させて頂きますが、道の駅きよかわでは、満開のソメイヨシノが我々を迎えてくれました。



写真-6 大塚会長宅の玄関先にて



写真-7 道の駅きよかわの満開のソメイヨシノの下で

5. 続編・4月9日（土）のご報告

（1）妻と二人で

帰宅し、山桜の開花状況が今一つだったことを妻に告げると「週末ならば私は空いてます」との言がありました。週末は長崎県の私の両親を訪ねる予定でしたので少々迷いましたが、電話し、両親の家にはその次の週末に行くこととなり、再び、長谷の山桜を見に行くことになりました。

（2）松巖寺裏と奥の院

ほぼ一週間後でしたが、気温が上昇したせいか長谷の山の様子は見違えるように変わっていました。松巖寺裏と奥の院の写真を見て頂ければ一目でその違いがお分かりだと思います。奥の院では、写真を撮っていると一軒家のご主人が出て来られ、昔は山桜の木も椎茸のほだ木として使っていたが、この場所は森林組合が山桜を残してくれたんだとのお話等を聞かせて頂きました。また、妻が「この景色を独り占めですね！」と言うと、笑いながら「本当に良いには3日間ぐらいですよ」と教えて頂きました。

奥の院から成瀬谷へ向かおうとした時、渡邊さんが来られ、摘み立てのワラビ他のおみやげを頂きました。感謝です。ワラビは初もので湯がいて（もちろん私ではなく）、鯉節を掛けて頂きました。



写真-8 4月9日（土）の松巖寺裏



写真-9 4月9日(土)の奥の院

(3) 成瀬谷で昼食を！

共助研会員であれば、“ティファニーで朝食を”ではなく、やはり“成瀬谷で昼食を”でしょう。一週間前とは大違いで気温も高く、風もほとんどなく、山桜はほぼ満開で、手が届くように近くにもあり、花を見ながらの昼食を楽しみました。



写真-10 “成瀬谷で昼食を”

(4) 巨木の開花

“鉄塔下の巨大桜”と勝手に呼んでいるあの山桜が開花している状況も確認することができました。もう少し近くから良く見える場所があるのではと探しましたが、近付き過ぎると手前の木々が遮って、中々良い場所がないことが分かりました。そうそう、都合の良い事ばかりはなさそうです。しかし何時かは、もっと良く見える場所を見つけたいものです。



写真-11 鉄塔下の巨大桜

(5) あの女性と再会

昼食後、「森脇さん撮影の“桜と女性”」の現場へ向かうこととしました。やはり、ソメイヨシノのトンネル状の様子、お庭の草花、モミジの新芽等々、雰囲気全体は格段のものでした。そうこうする内、お宅から何と、手押し車を押しながらあの女性が出て来られるではありませんか！お話もそこに、昨年の森脇さんの傑作写真に匹敵するような写真を私も撮ろうとシャッターを何度も押ししました。しかしながら、どうしてもあの写真レベルのものが撮れませんでした。辛うじて、お見せできる写真は、以下のとおりです。

坂を下りてくつろいでおられた時に、妻と二人で話し掛け、ご高齢であること、昔はご主人が山林を管理されていたこと、庭の手入れが大変なこと等を聞かせて頂きました。「来年もまた見に来てよ」との言葉も頂きました。

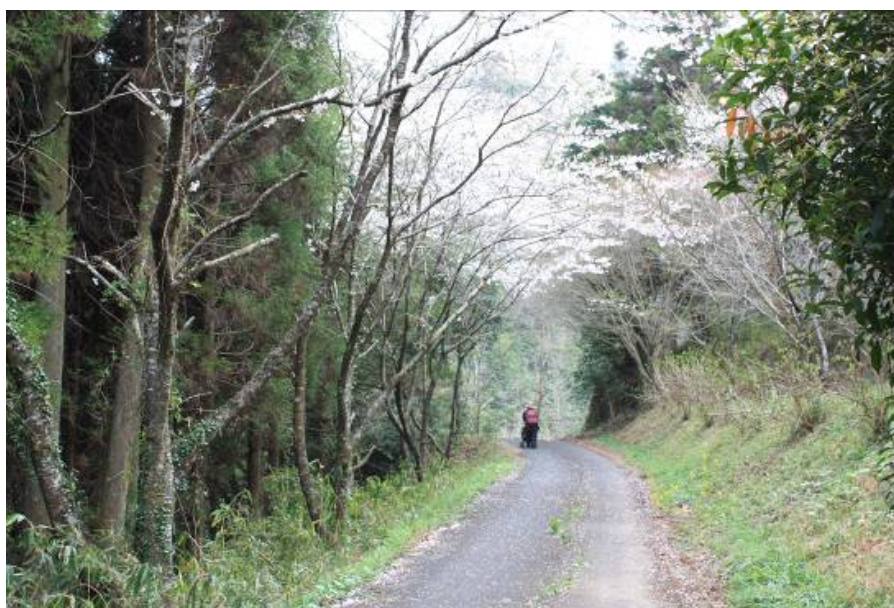


写真-12 桜と女性（パート2）

(6) さいごに

一週間前と異なり、山桜を堪能することができ、改めて長谷山桜の見事さを実感しました。帰り際、長谷出入り口のトンネルを出た箇所の自動販売機のところで車を止めました。振り返ってトンネルの方向を見ると、トンネルの上部の丘に鮮やかに満開となっている桜が目に入りました。丁度、風が吹いてきて道路際の桜から落ちた花びらが舞い、その風景に一段の趣を添えるようにキラキラと輝いていました。

丘の上のこの桜が山桜かどうかは分かりませんが、林の中にあるようなので山桜かも知れません。ソメイヨシノと比べれば、山桜は華やかさでは劣るような気がしますが、この日の山桜は、この木のようにソメイヨシノと同じような華やかさも持ったものが何本もありました。

長谷地区（柴北川流域）の山桜を含むお話を、大野川流域の夢アイデア発表会の場で渡邊さんから聴かせて頂いてからもうすぐ丸2年になろうとしています。その間、転げ落ちそうになった奥の院の調査顛末から始まり、たくさんの思い出話も嵩んできています。今回の震災の影響は、我々一人ひとりの考え方へも深く及んでおり「自分にできることは何か?」「共助研としてもできることがあるのでは?」等々を考える日々が続いていますが、今日一日は、自然が見せてくれる素晴らしさを確認できた一日でした。

長谷山桜の素晴らしさ、地域の方々の暖かいお気持ちを少しでも多くの方々に知って頂こうと思い、続編まで書かせて頂きました。



写真-13 長谷出入り口のトンネルと桜

——— さまざまの事おもひ出す桜かな ———

(芭蕉：元禄元年（1688年）、45歳の句)

(文責：木寺)